

# 決算報告

市の令和元年度決算が、市議会9月定例会で認定されました。皆さんからの税金や国、県からの支出金がどのように使われたのかお知らせします。

◆問合せ先 財政課財政係  
(☎0253)

## 一般会計のポイント

### 人件費は減、扶助費は増

令和元年度の南陽市の一般会計の概要は以下のとおりです。歳入と歳出の差し引きである「歳入歳出差引額」は9億6,311万円、繰越金等を除いた単年度収支は19億4,700万円、そこから基金積み立てや取り崩しを差し引いた実質単年度収支は2億1,546万円の赤字となっています。

高齢者・障がい者福祉、子育て政策に必要な「扶助費」の増加が続いています。引き続き限られた財源の中で、市民生活に直結することを優先的に、事業の見直しを効果的に行いながら財政運営に取り組みます。

## 令和元年度の一般会計の概要

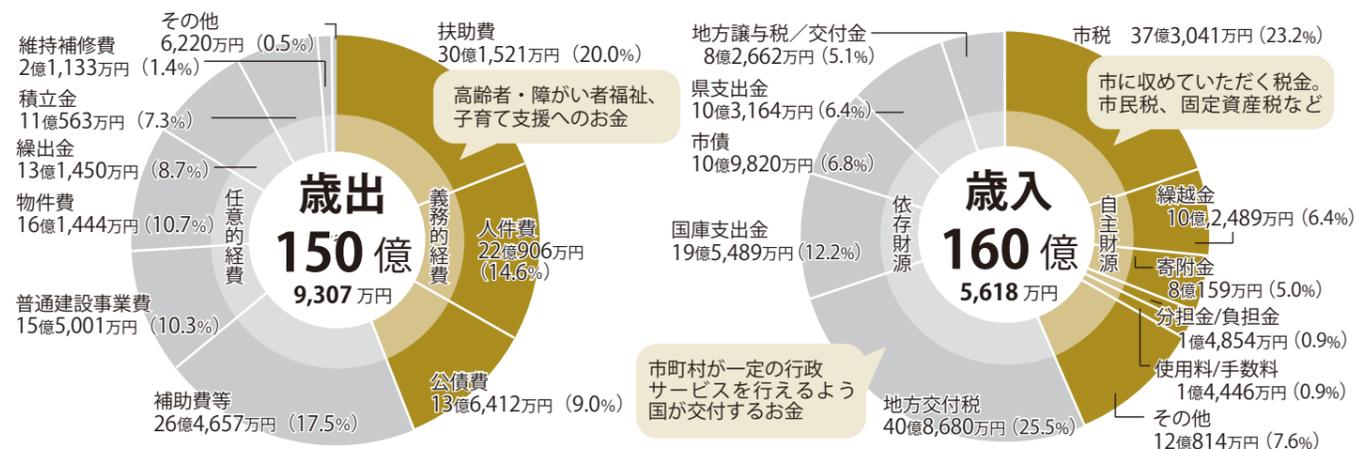
|         |             |
|---------|-------------|
| 歳入総額    | 160億5,618万円 |
| 歳出総額    | 150億9,307万円 |
| 歳入歳出差引額 | 9億6,311万円   |
| 単年度収支   | 1,947万円     |
| 実質単年度収支 | -2億1,546万円  |

前年度までの繰越金等を除く  
基金への積み立てや取り崩しを除く

## 一般会計

### 歳入は5億7,268万増

### 歳出は6億3,445万円増 (前年度比)



**出**ていくお金、歳出決算額は150億9,307万円。前年度から6億3,445万円増加しています。このうち義務的経費（支出が義務づけられ減らせない経費）では、扶助費が増え、人件費、公債費が減少しています。

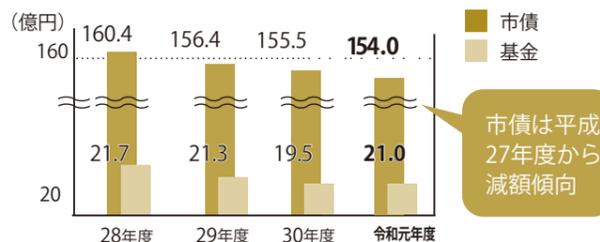
一方、任意の経費（市が任意に使える支出）では赤湯中学校屋外運動場施設の整備があったものの、幼稚園・小中学校の冷房設備工事などが終了したことにより前年度に比べて2,533万円減少しました。

**入**ってくるお金、歳入決算額は160億5,618万円。前年度から5億7,268万円増えました。

このうち自主財源（市が自主的に調達し、用途を決められる財源）は4億2,971万円増加しました。寄附金、市税の増加が大きな要因です。また、依存財源（国・県の交付金や市債）は1億4,297万円増加しました。国庫支出金、地方特例交付金の増加が大きな要因です。

## 市債(市の借金)と基金(市の貯金)

### 市債残高は減少継続



**市債** 歳入の不足を補うとともに、世代間の公平性を保つために市が発行する債券、つまり借金です。市債残高は前年度に比べ1億5,233万円減りました。

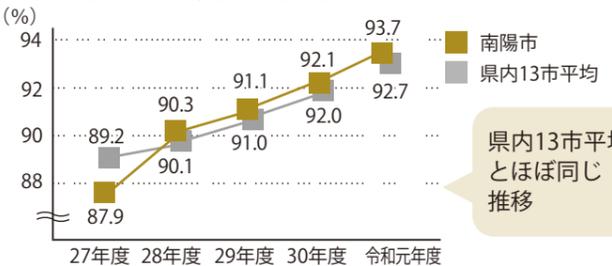
**基金** 市の財産の維持や資金を運用するために設ける財産、つまり貯金です。地域振興基金や公共施設維持管理基金の積立が大きかったことなどにより、前年度に比べ1億5,314万円増えました。

## 市の財政状況を分析

### 将来負担比率は公立置賜南陽病院改築の負担増により上昇

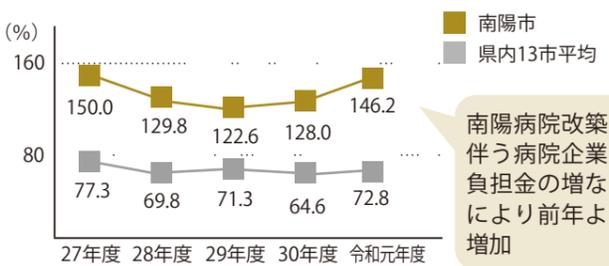
## 経常収支比率

固定的に支出されるお金の割合。歳出のうち、扶助費、人件費、公債費をはじめとする毎年継続して固定的に支出される経費の比率。率が低いほど臨時的な財政需要に予算を向けることができます。



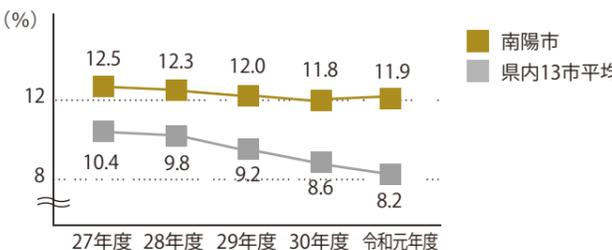
## 将来負担比率

市の借金が収入の何年分になるか。標準財政規模に占める、市の借金（地方債、債務負担、公営企業への負担見込等の合計）の割合。低いほど将来への負担が少なく済みます。



## 実質公債費比率

市の収入のうち、どの位返済にあてたか。標準財政規模に占める市の起債償還金（企業会計や一部事務組合を含む）の割合。低いほど健全な経営です。



将来負担比率・実質公債費比率ともに、昨年度を上回りましたが、国の定める基準を下回っています。また、すべての公営企業で資金不足はありませんでした。